

成長戦略(長期ビジョン・中期経営計画)

朝日工業社グループは、どのような時代、いかなる環境の下にあっても、たえず未来を見つめ、時代の変化とお客さまをはじめとしたステークホルダーのニーズに向き合い、果敢に挑戦して、社会に信頼され必要とされる企業集団であり続けたいと考えています。

その想いを実現するために、2017年に「さまざまな可能性に挑戦する『オンリーワン・カンパニー』」を目指す姿(ビジョン)に据えた長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」を策定し、中期経営計画を通じて挑戦を続けてきました。

長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」 さまざまな可能性に挑戦する「オンリーワン・カンパニー」

「ASAHI-VISION 100」で目指した姿

独自の技術・サービスで、他社とは何か違う、他社より一歩先を行く、『オンリーワン』の企業集団

「ASAHI-VISION 100」での主な取り組み

- 【事業拡充】生産施設分野への積極的な取り組み、新たな事業・ビジネスの確立
- 【現場強化】現場力の強化、収益力の強化
- 【基盤整備】研究・開発力の強化、人材の確保と活用、CSR経営の推進

「ASAHI-VISION 100」 KPI推移(連結)

	2017年 3月期	2020年 3月期
売上高 (百万円)	79,724	103,964
営業利益 (百万円)	3,722	3,661
自己資本 利益率(ROE)	10.5%	7.6%
生産環境施設 売上比率	34%	35%
従業員数(名)	996	1,063

第17次中期経営計画 「SPEED UP-PLAN 17」 (2020年4月～2023年3月)

「変革の加速」

- ビジョン推進の状況確認と的確なフォロー
- 必要な投資の戦略的実行

第16次中期経営計画 「POWER UP-PLAN 16」 (2017年4月～2020年3月)

「変革への着手」

- 基盤・体制の整備・強化
- ビジョン実現に向けての確実な着手

第18次中期経営計画 ～Beyond the 100th～ (2023年4月～2026年3月)

第18次中期経営計画
「ASAHI-VISION 2050」でも引き続き推進

「変革の実現」

- ビジョンの実現・達成と評価
- 次なる飛躍への挑戦

基本方針

100周年とその先へ向けて、3つの戦略とそれらを支える2つの基盤強化に取り組む。



新たな長期ビジョン「ASAHI-VISION 2050」 ワクワクする未来をカタチに ～ Imagination & Creativity ～

▶ P39～44 「【特集】朝日工業社のこれまでとこれから」で「ASAHI-VISION 2050」の詳細を紹介しています



成長戦略 (第18次中期経営計画の進捗〈2期目〉)

主要計数目標の進捗

(単位: 百万円)

	2025年3月期			2026年3月期	
	目標 (期首当初)	実績	達成率	目標	増減率 (2025年3月実績比)
連結受注高	84,700	93,098	109.9%	100,000	107.4%
設備工事業	78,700	85,716	108.9%	94,000	109.7%
機器製造販売事業	6,000	7,382	123.0%	6,000	81.3%
連結売上高	92,500	91,947	99.4%	100,000	108.8%
設備工事業	86,500	86,111	99.5%	94,100	109.3%
機器製造販売事業	6,000	5,835	97.2%	5,900	101.1%
連結営業利益	3,600	7,248	201.3%	7,450	102.8%
連結当期純利益	3,100	6,229	200.9%	6,400	102.7%
連結自己資本利益率 (ROE)	8.0%	15.4%	192.5%	8.0%	—
連結配当性向	40.0%	49.6%	124.0%	40.0%	—

2025年3月期の決算について

売上高は目標を若干下回るものの、受注高と各段階利益で目標を達成、特に各段階利益は目標を大幅に上回る結果
設備工事業：工事採算の改善努力により大幅な増益 **機器製造販売事業**：ドライヤ装置の受注獲得により受注高が増加
各段階利益の大幅な改善と政策保有株式の縮減を進めた結果、2025年3月期のROEは15%を超えて、目標とした株主資本コスト(7～8%)を大きく上回ることとなった。
創立100周年記念配当を含めた連結配当性向は49.6%と、目標とした40%を大きく上回る。

2026年3月期の当初予想と今後の事業展開について

国内製造業の設備投資が引き続き堅調であり、半導体・化学・医薬品・自動車工場やデータセンター、研究所などの生産環境施設を中心に、今後も中長期的に受注が見込まれる
売上高についても、
設備工事業：データセンター等の生産環境施設の手持ち工事が大幅に増加
機器製造販売事業：半導体製造装置向け製品が復調傾向、FPD製造装置向け製品も市場が回復、ドライヤ装置も大口を受注していることから、2025年3月期を上回る見込み。
⇒事業戦略で掲げた戦略的かつ長期的視野に立った受注活動の推進と機器事業部、研究所、工事店が事業領域の拡充に向けて連携したことが成果となって表れている。
継続する資機材価格の高騰、労働者不足、人的資本経営の推進にかかる費用の増加など課題はあるが、継続的な工事採算の改善に努め、2026年3月期も事業目標、さらにはそれを超える業績の達成を目指し、全社一丸となって努力する。

戦略・基盤強化の主な進捗

事業戦略 ～収益力の強化と生産性の向上～

重点項目	進捗状況
戦略的かつ長期的視野に立った受注活動の推進	● 全社的な情報共有によるターゲットを絞った受注活動を推進、またリニューアル営業を強化 ⇒元請工事・リニューアル工事比率の拡大を推進
全社的な設計・施工体制、サポート体制の構築	● 設備施工のユニット化の事例を収集してデータベース化を推進、全国の施工現場でのユニット化採用率はおおむね50%程度まで上昇(一部のユニット化も含む) ● 首都圏ではオフサイト拠点を試験的に活用、有効性を検証する
	● 超大型半導体工場、ハイパースケールデータセンターなどの全店プロジェクトにおいて、設計・施工体制の構築、支援、情報共有を実施 ⇒事業店を越えた若手社員の人材交流、技術交流によって技術力の底上げにも貢献

人材戦略 ～人材の価値を最大限に引き出す人的資本経営の実践～

重点項目	進捗状況
人材の確保と育成	● 目標45名を大きく上回る56名の新入社員が入社、前年比75%増を達成 ● 採用活動における全社的な支援・協力体制を整備したほか、リファラル採用、アウトソーシングを活用
人事制度の再構築	● 従業員のモチベーションアップを目的とした、新評価制度の制定と運用を開始 ● ワークライフバランスの推進のため、健康経営の取り組みを強化、在宅勤務・時差出勤を制度化 ● 最も重要な経営資源である「人」を戦略的に管理し、活用するための手法を検討中

イノベーション戦略 ～研究開発の強化・推進と新事業への挑戦～

重点項目	進捗状況
研究開発の基盤強化と推進	● 新技術研究所の建設は計画通りに進行中、2025年9月竣工、12月開所予定 ● 機器事業部との連携強化により、アグリ関係のオリジナル空調機器の開発を推進 ● 植物工場に適した作物の作出および栽培方法・システムの開発で一定の成果
新規事業とイノベーションの創出	● 「ASAHI-VISION 2050」で定めた新規事業として考えられる領域「アグリ・バイオ・防災・医療・健康・新エネルギー」でのイノベーション創出を目指す ⇒特に研究開発が先行しているアグリ分野について新規事業を検討

サステナビリティ基盤の強化

重点項目	進捗状況
事業活動におけるCO ₂ 排出量の確実な把握と削減	● 2023年度の温室効果ガス排出量について、国際的な基準である「ISAE3000」および「ISAE3410」に準拠した第三者保証を取得 ● 2050年度までに温室効果ガス排出量を2019年度比でネットゼロにする当社の削減計画が科学的根拠のある温室効果ガス排出量削減目標としてSBT認証を取得 ● 機器事業部豊富工場に太陽光パネルを設置するほか、本社本店ビルに実質再生可能エネルギー由来の電力を導入することで当社経営におけるCO ₂ 排出量の削減を推進

DX基盤の強化

重点項目	進捗状況
DXによる業務プロセスの変革	● クラウドストレージや業務用チャットツールを導入、今後はどのように活用すればさらに業務を効率化できるかを検証する ⇒AIを活用して業務効率化を推進する予定
BIMの活用推進による建設DXの加速	● 引き続き、新技術研究所の建設現場をモデル現場として有効性を検証中 ⇒設計積算時のBIM化に係る労力が大きく、まだ一般的な物件まで展開できないところが課題 施工時には現場管理用のさまざまなアプリケーションとBIM化されたデータを連携することで、施工管理業務の効率化と品質安全性の向上を目指す